

要 約

- (1) 分株して増えるという栄養生殖が重要な増殖法であると考えられるリュウキュウスガモとリュウキュウアマモの生育密度の季節変化を、現場に方形枠を設置し同一場所の株数の変化を観察する方法で調べた。今回の調査では、リュウキュウスガモ・リュウキュウアマモの両種とも季節的な変化は明らかではなかった。今後、より精密な調査が必要であろう。
- (2) 植物食性魚類の重要な餌料と考えられる海草に付着する藻類の種組成及び量について調べた。現在までのところ藍藻 8 種、緑藻 5 種、褐藻 8 種、紅藻 2 種の計 43 種が同定された。また付着藻の量的変化は、春に多く夏から初秋まで減少し以後徐々に増加する傾向を示した。
- (3) 1981 年 6 月 8 日から 13 日までの 5 日間、桁網漁獲試験を実施した。期間中の全漁獲物は 47 種、420 個体、287.5 kg であった。主要な漁獲物は、ゴマアイゴ・モンツキアカヒメジ、オキザヨリなどであった。特に今回は、ゴマアイゴが 203 尾、193.3 kg と大量に漁獲されたが、これらの生殖腺は雌雄ともによく発達していた。
- (4) 1981 年 4 月、5 月、6 月に実施した幼魚小型魚対象の刺網漁獲試験結果と 1980 年 4 月から 1981 年 6 月までの刺網漁獲試験漁獲物の食性について報告した。出現した 101 種のうち 72 種について食性がほぼ推定でき、底生動物食性魚 39 種、植物食性魚 16 種、魚食性魚 8 種、雑食性魚 6 種、プランクトン食性魚 3 種であった。
- (5) 1981 年 6 月 18 日、保護水面内の藻場で底生動物の採集を行なった。前年度同時期と同様に多毛類と端脚類の個体数が多かった。また、刺網漁獲試験と底生動物調査で採集した短尾類について種の査定を行なった。出現種数は 27 であったが、そのうちトゲイソクズガニ、イッカクガニ、コワタクズガニ等が多く採集された。
- (6) 1981 年 4 月 16 日にフィルム魚礁 24 個を水深約 15 m の砂泥底に設置した。また同年 11 月 9 日には 1.5 m 角型コンクリート魚礁 32 個をフィルム魚礁と隣接する水深約 13 m の砂泥底に設置した。フィルム魚礁にはスズメダイ類・イシモチ類・ハタンボ類幼魚が蛸集していた。1.5 m 角型魚礁は魚類の少なくなる水温下降期に設置したため、まだ蛸集魚は少ないが、水温の上昇とともに魚類が集まってくると期待される。
- (7) 1981 年 7 月 25 日、11 月 18 日及び 1982 年 1 月 18 日の 3 回、保護水面内の 2 地点で水質調査を行なった。